

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

【取り組みの事実】

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

【取り組んでいきたい項目】

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

【取り組んでいきたい内容】

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】(アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 春 3階
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	静岡県沼津市岡一色450-1
記入者名 (管理者)	多賀 豊子
記入日	平成 21 年 7 月 25 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	倫理綱領、利用案内時の説明文を見やすい所に配置している	○ 今後も継続していく
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念である「みんなの誓い」を明示しており、この実践に向かい、介護従事者に日常的に話している	○ 理念の具体化に向けて取り組んでいるが、今後もより一層努力する
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	グループホーム春の倫理綱領、利用案内時の説明文を見やすい所に明示し、入居者及びその家族等に解りやすく説明している	○ 定期的に地域の方や家族と話す場を設け、話す機会を増やしている
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩、通勤時に会う近所の方に挨拶をしている	○ 周辺の各施設と連携を取りながら理解を得る事ができる様に働きかけを行う
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に参加し、ホームの役割を地域に伝えている	○ 地域の活動に参加して地域の方との交流を深めている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者等との交流は、年に何度か町内清掃に参加したり、道路での挨拶程度である	○	地域の活動を通して交流を持つ機会を持つ様にする
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を理解し、評価を活かして取り組んでいる	○	日常業務、入所者の対応の見直しをする機会とする
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の会議録を残し、職員が閲覧できるようにしている	○	話し合ったことが現場でのサービス向上に繋がる様、努める
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	研修や会議に参加している	○	関わる機会を増やしていき、サービスの向上に取り組みたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はなく、活用して支援していることはない	○	学ぶ機会を持てるよう努める
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待を行わない事をよく理解しており、行われていない	○	今後もそのようなことがないように対応していく

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が行っている	○ 今後も継続していく
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情対策委員会を設置し、意見の場を設けている	○ 直接話を伺う他、言動、行動の様子を観察し、不満がないよう努めている
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	・家族等の面会時に様子を伝えたり、相談を受けている ・月に1度、手紙で近況報告、預かり金の会計報告を郵送している ・職員の移動の報告は特にしていない	○ 家族等が安心感を持っていただけるよう努めている
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会(2ヶ月に1度)、家族会を開催し、意見の場を設けている	○ 家族等が意見しやすい雰囲気、会話作りに努める
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	提案書を提出することで反映させている	○ 提案書を活用し、意見を聞く機会を増やす
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務調整は管理者、ユニット長でおこなっている	○ 他フロアの職員でも対応できるよう、各フロアの申し送りを行い、全フロアの状況が把握できるようにしている
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職について利用者に伝えない様に配慮している(ダメージを防ぐため)	○ 離職後も面会に来ることは拒んでいない

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・新人研修、計画作成の研修などの社内研修、内部研修をおこなっており、外部の研修にも参加している	○ 自発的な育成を出来るよう取り組みたい
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列の他ホームでのイベント参加や当ホームに招いて、イベントを行う。グループホーム協議会での交流はある	○ 相互訪問等を通じサービスの質の向上を図る
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員へのアンケート等行っている。内部では同僚、管理者へ相談、アドバイスを貰い軽減されている事もある	○ 職員間での意思疎通を図り、環境のよい職場作りをする
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務状況、管理者からの報告により、把握している	○ 個々の努力や実績、向上心を持ち続けられる環境づくりの取り組み
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	日常の様子、希望等、話をよく伺い対応できるようにしている	○ 必要な情報を得て対応する
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族から見た本人の様子、状況、家族が望むホームでの生活を伺い対応できるようにしている	○ 必要な情報を得て対応する

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その都度、本人、家族の希望、意思に沿えるよう対応している	○	本人、家族の希望、意思を理解できるようコミュニケーションを取っていきたい
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族と相談しながら取り組んでいる。本人の気持ち、要望を聞き職員間で把握できる様になっている	○	自然に場の雰囲気に馴染んでいける様、様々な情報を職員間で交換していく
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	コミュニケーションを取りながら、出来る事を一緒に行うようにしている	○	個々と関わる時間を増やしていきたい
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	受診や外出等の協力、不穏時の対応をお願いすることにより一緒に支援していただいている	○	本人の生活を出来るだけ伝え状況が解る様にし、これからも協力を仰いでいく
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との関わりを大切にし、より良い関係が築けるよう支援している	○	面会時に家族の声を聞くようにしている
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	要望があれば対応できる体制をとっているが、こちらからのアプローチはしていない。馴染みの方の面会はある	○	生活史を理解し支援を深める
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	可能な限り努めている。争いなどが起きないように注意している	○	利用者同士の交流が深まる様、職員も介入し関わりを持てるようにする

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要があれば行うが、こちらからのアプローチはしていない	○	相手の都合もあるため、状態を見て行っていきたい
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	美容院、買い物、外食等、楽しみを個々の希望に添い実施している。困難な場合は家族と相談をしながら対応している	○	9人個々に支援することは難しいが、常に利用者本位で取り組んでいく
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時や面会時に家族より聞き取りをして生活史の把握に努めている。日々の会話の中でも話しをするよにしたり、アセスメントをして、問題点の把握、改善に努めている	○	個々の生活史を把握し、柔軟に対応できるよう努める
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	表情、行動などの様子を詳細に観察している。バイタル測定をして体調を伺っている。本人のペースで、行えることをして頂きながら把握するよう努めている	○	体調の変化、気分の変化を見逃さない
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントに基づいて利用者主体の計画をたて、個人の生き方に即した具体的支援計画を作成している。支援計画に利用者、家族、職員の気づきや意見を取り入れてる	○	支援計画を把握し、支援計画に沿ったケアを行っている
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	支援計画に実施機関を明示して、その期間が終了する前に、アセスメント、モニタリングを行い、現状に即した計画を作成している。定期的カンファレンスを行い状態の変化に応じた対応を職員全員で把握できるようにしている	○	現状の状態に即した支援計画を作成する

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子、身体状況や体調の変化等、細かなことを記録に残し、申し送りで職員が把握できる状態にしている。担当職員がアセスメントに落としたり、モニタリング、カンファレンスで意見交換することにより支援計画に反映されている	○	情報を細かく把握し、共有していく
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別、ユニットごとに希望に応じた外出支援をしている	○	外出支援の機会を増やしていく
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事の際には積極的にボランティアの受け入れをしている。防火訓練には消防の協力を得ている。地域の方に向けて認知症サポーター講座を開催している	○	地域の幼稚園児、高校生、高齢者との交流を図る
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要性に応じて対応している	○	ホーム内で必要な支援が行われている事が多いため、他のサービスを取り入れことがないが、本人の意向や必要性に応じて対応していきたい
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ホームと地域包括支援センターとの関わりはあるが、個別のケアマネジメントなどで関わることはない	○	地域包括支援センターと連携して活動する
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院主治医の往診、病状にあった病院受診、利用者、家族の希望に添うよう、適切な医療を受けている。体調の変化が見られる時は上申、受診をしている	○	利用者、家族の希望を把握し、適切な医療が受けられるように支援している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて認知症専門医師に受診して、相談、診断、治療を受けている	○	今後も連携して対応していく
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護を1回/週取り入れ、利用者の状態を見ていただいたり、相談をし、健康管理をしている	○	今後も連携して対応していく
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	情報交換、相談に努め、連携している	○	今後も連携して対応していく
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者、家族、医師等と話し合いながら方針を共有している	○	情報共有をすると共に状態の変化、異常の早期発見、状態の変化を観察する
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療に関わる支援は主治医と共にチームで連携し支援に取り組んでいる	○	ホームでの対応を考えながら、利用者が安心して過ごせる空間作りをしていく
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しい場に馴染めるよう、十分な情報交換や話し合いを行い、ダメージを最小限に抑えている	○	個人に合った対応をし柔軟に動けるようにする

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個別性を重視した声掛けや対応をしている。周囲を気遣い、個人のプライバシーを尊重している。記録は個人を特定できないような書き方をしている	○ プライバシーを損ねない様、充分注意する
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の希望が引き出せる声のかけ方をしたり、表情、行動、言葉等の観察をし、希望に添える対応を心掛けている	○ より深い思いを表出していただける様に支援する
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿えるよう支援している。希望者が重複したり、緊急を要する対応をしなければならない場合は、時を告げお待ちいただくこともある	○ 個々の生活を尊重し、暮らしやすい環境作りに努める
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望に沿った対応をしている	○ その人らしい身だしなみやおしゃれができ、生活のリズムが出来たり、楽しみができる
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好、身体状態に合わせた食事作りに努め、下膳や食器拭き等、可能なことは行っていただいている	○ 調理等一緒に行う機会を増やす
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	疾病や身体状態を考慮しながら希望に沿えるよう支援している。希望に添えない場合でも、他の対応策を考え対応している	○ 体調を崩さない様、十分に注意する

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表をつけ、個々の排泄パターンが解るようにしている。必要な方には、時間を見ながらトイレ誘導をしてトイレでの排泄ができるよう支援している。体操や食物繊維の摂取等で便秘の予防をしている	○	職員全体で排泄パターンを把握し誘導できる
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が何かをしている途中でも、入浴希望者には入浴をしていただいている。介助が必要な方は、お風呂の空いている時間や職員の手が空いている時になりがちだが、入浴していただいている	○	入浴拒否の利用者への清潔を保持できる支援をする。生活習慣や希望に応じた入浴をしている
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個人の意思を尊重して就寝、起床時間をきめていない。朝熟睡している時は食事の声を掛けない	○	身体状態を考慮しながら、個人の時間を大切に過ごしていただく
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人の意思を尊重しながら職員と一緒に作業をしていただいている。その方らしい生活ができるように支援している	○	好きな時に好きな事をおこなえる環境作りをしていく
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る方は自己管理している。必要に応じて預かり金で購入の支援を行っている。希望に沿えるよう、買い物へ一緒に行っている	○	お金のトラブルがない様につけている
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日によっては対応できない日もあるが、対応できる時は希望に沿って対応している	○	個別ケアの充実を図り今後も継続していく
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食、お花見等の外出の企画をたて、全体で行く機会はある。希望があり、対応できる状態であれば支援している	○	可能な限り対応していきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は状況を考慮しながら手紙を出したり、電話をしている	○	今後も継続していきたい
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	友人、家族の方がいつでも訪問できる状態にしている。訪問時は本人と過ごせる時間と空間の提供をしている。お茶を出し、和やかに居心地良く過ごせるよう支援している	○	今後も継続していきたい
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない	○	今後も継続していきたい
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠はしていない。夜間は防犯のために外玄関は、施錠している	○	今後も継続していきたい
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に所在の把握をしている。夜間、日中必要に応じて訪室し状態を把握している	○	ちょっとした変化を見逃さない様に常に把握をする
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	目の届く所に刃物類、薬、消毒液を置いていない	○	必要に応じた対応をしていく
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書、ヒヤリハットを使い、対策を考え、話し合っている。防火訓練の実施をしている	○	情報の周知、徹底を図る

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアルを作成してある	○	全職員が救命講習の受講
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災訓練を実施している。地域の訓練にも参加している	○	地域に働きかけ連携をとる
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスク等について家族に話しをしている。対策について連絡、相談、報告、情報交換をしている	○	家族への情報伝達を密にする
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	いつもと様子が違う時は、すぐにバイタル測定し、異常があった時は他職員に速やかに伝え、迅速な対応に結び付けている	○	異常の早期発見と適切な対応をする
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	完全ではないがほぼ把握している。把握できるよう、最新薬の名前、効能、副作用などを保存している	○	薬の目的、副作用を学習し、把握する。語薬のないよう確認し、服薬介助をする
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給、寒天、ヨーグルト等の提供、散歩や体操等運動をしている	○	体を動かす機会を日常動作の中で増やしていく
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声掛け、介助が必要な方は口腔ケアをおこなっているが、全員は行っていない	○	毎食後、全員が行えるよう声をかけていく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜、肉、魚、卵、乳製品、果物等を1日でバランス良く摂るよう心掛けている。10時、15時その他、必要に応じて水分補給をしていただいている	○	栄養のバランスの取れた献立作りをする
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染予防委員会があり、そこで話し合った事を実施している	○	清潔、感染予防を徹底する
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、包丁などは毎回熱湯消毒してしようしている。出来るだけ新鮮な状態で食材を提供し、作って2時間以上のものは廃棄している	○	できるだけ安心、安全な食材を使用する
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花の季節には鉢植えの花など置いている	○	家族、来客が違和感を持たない様に季節の花や鉢などを飾っている
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いて過ごせるように、カーテン等で眩しい日差しを遮る、照明、テレビや会話のトーンに気を配っている。季節感をできるだけ取り入れている	○	居心地の良い空間作りをする
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが自由、気ままに過ごすことができる玄関があったり、畳のスペースがある	○	居心地の良い空間作りをする

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前から使用していた家具や持ち物を持ってきていただき使用している。配置なども危険のない限り本人の希望で設置している	○	危険のないよう工夫し、本人の希望出来る限り取り入れる
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室は個人に合わせて、温度調節、換気に配慮し調節している。トイレは汚れがある時は掃除し清潔を保つ様になっている	○	トイレ掃除をこまめにする
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室内に手すりを設置、玄関にスロープ、車いす用のトイレがある	○	安全な環境作りに努める
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりに合った対応をしている	○	今後も継続していく
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	洗濯物干しにホームの庭へ行っている。家庭菜園を行っている	○	今後も継続していく

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)